



あけましておめでとうございます

タイ王国との交流事業

「明日へ向けた日タイの文化交流の新展開」

九州国立博物館長 三輪 嘉六

私たち九州国立博物館では、平成19年度から本格的にタイ王国との交流事業に力を入れてきました。

その一つとして、独立行政法人国際協力機構（JICA）と協力して3年間の草の根技術協力事業を実施したわけです。主としてこの事業内容は、毎年3名、計9名のタイの研究者を当館に受け入れて3週間にわたる研修を実施し、タイのバンコク国立博物館においてセミナー「文化財の保存と地域の活性化」を開催しました。



タイで講演する三輪館長

そんな背景をもって私は、バンコク国立博物館で開催されたセミナーのため、昨年11月下旬にタイを訪問いたしました。

その際に、一番感銘を受けたことが、まさに九州国立博物館を愛する会の活動と共に皆様の博物館や地域に対する熱い思いが、タイの研究者の心を打ち、そして、日本にいられた研究者を中心にタイの博物館関係者に広がっていきつつあることです。

そのセミナーには、タイ全土から約100名の博物館関係者が参加され、そこで日本

の研修に参加したウサー・ヌオンピエンパークさんが、皆さんの活動について紹介しました。きっと多くの博物館関係者の心に何らかの形で熱い思いの種が蒔かれたことでしょう。

さらに、印象に残ったことは、実際にタイの博物館、具体的にはバンコク近郊のナコンパトムの国立博物館でも「愛する会」というボランティア活動が始まっているということです。そして、ウサーさんによれば、研修の中で皆さんがお話してくださった九州国立博物館や地域に対する思いや実際の活動をナコンパトムの愛する会の活動への助言としていきたいとのことでした。

まさに皆さんの活動が、タイの博物館とその地域とを繋ぐ原動力になろうとしていることに感動を受けました。



タイで報告されるピッカ美化活動

私たちは、今、このタイ王国との交流事業の大きな成果の一つとして、日タイ両国が協力した新しい行動計画を立てたいと思っています。その内容は、日本国の文化庁、九州国立博物館、タイ国の芸術局、バンコク国立博物館とが共同して「日本及びタイ美術の展覧会」を実施しようとするもので、2011年の1月の開催を目指し準備を進めているところです。

そして、この展覧会の開催にあたり、私たちが何よりも期待しているのは、これに日タイ両国の市民の方々が参加し、少しでも地域の活性化に役立つものにして欲しいということです。またそうした取り組み方へ向けてこれからも具体的な形で努力していきたいと考えています。

ぜひ、九州国立博物館を愛する会の皆様には、この計画に参加していただき、近い将来、九博の「愛する会」とタイの「愛する会」の方々とがネットワークを結び、今までにない新しい形の日タイの交流へ繋がっていく期待、私の中でこんなイメージが出来上がりつつあります。

どうか皆さん、九州から新しい形の、そして本当に相手のことを親しく思い交わる真からの交流を一緒に進めていきましょう。

九州国立博物館を愛する会 研修旅行

「九州再発見の旅」

会員交流委員会

副委員長 堀 悠祐



11月25日（水）から27日（金）の3日間、「九州再発見の旅」と題して、多様に変わりゆく九州の姿、そして脈々と受け継がれてきた九州の文化や伝統の素晴らしさを今一度ゆっくりと振り返ってみようとの思いから、大分県臼杵市をはじめ、「天孫降臨の地」高千穂など、普段の旅行ではなかなか見ることのない名所へ、総勢27名の参加で行ってまいりました。

11月25日

晴天に恵まれた25日、太宰府天満宮の大駐車場からバス1台と乗用車1台で出発。霧の大分自動車道を通って、一路大分県臼杵市へ。約1時間半で臼杵市に到着。昔の町並みが残る臼杵ではボランティア観光ガイドの今泉さんに案内してもらって、有名な「二王座歴史の道」や、今はギャラリーになっている「久家の大蔵」などを散策し、昼食は臼杵市の「フグ」に下鼓を打ち、皆さんお腹一杯になって、最後の雑炊は少し残っていました。

その後、再びバスに乗って紅葉の穴場「普現寺」へ行きました。バスを降りて山を少し登ると、それは見事な紅葉が広がっていました。お寺で記念写真を撮り、再びバスで移動。今度は東洋のナイアガラといわれる「原尻の滝」や、雪舟が水墨画を描いた「沈墮の滝」を巡り、最後の観光場所は作曲家滝廉太郎の「荒城の月」で有名な「岡城社」へ行きました。

た。現在は城閣はなくなっていますが、石垣は残っており、よくこんな山の上にお城を作ることができたなど感動しました。山登りで疲れたところで、今日の宿泊地久住高原へ出発。阿蘇の山々に沈む夕日を見ながら、ホテル九重高原荘へ到着。夜の懇親会には別府さんも合流し、豊後牛をおいしく頂きました。お酒が入ったこともあり、カラオケを歌ったり、踊ったりと非常に楽しい懇親会となりました。



11月26日

朝焼けの中に浮かぶ阿蘇の山々を見ていると、話に聞いていたように本当に「涅槃像」のように見えてきました。2日目も非常にいいお天気に恵まれて、最初の目的地である阿蘇神社に参拝し、門前町散策では、まちづくりの一環として統一された看板や、多くのお店の前にはきれいな湧水があり、みなさんおいしいコロッケやサイダーを飲んだり、なんだか修学旅行を思い出しました。



門前町の後は「高森湧水トンネル公園」を見学し、昼食は、初めて囲炉裏を囲んで田楽をたべました。はじめは慣れていないので田楽が灰につきそうになったりしましたが、おいしく頂きました。昼食の後は須川さんの提案で近くの酒蔵へむかい、「霊山」というおいしい日本酒を飲んでご機嫌な皆さんでした。その後、山を越えて今度は天孫降臨の地「高千穂」へ向かい、くしふる神社や天岩戸神社を参拝

し、「ホテル高千穂」にチェックイン。愛する会の青山副理事長も到着され、ワインのお土産を頂きました。夕食を食べた後は夜のお楽しみ「岩戸神楽」を見に行きました。本当は三十三番の神楽があるということでしたが、観光神楽ということもあり、代表的な四番を見ました。初めて神楽を見ましたが、かなりの迫力でとても楽しむことができました。



11月27日

早いもので今日は最終日、朝起きた時はかなり霧がかかっていましたが、出発するときにはすっかり快晴になり、絶好の旅行日和でした。最終日はホテルを出てすぐにある「高千穂峡」に行き、ボートに乗ったり、散策したりと秋の高千穂峡をしっかりと満喫してきました。自然の力でできた高千穂峡は紅葉に染まり、本当にきれいでした。高千穂峡の後は天安河原へ行き、昔は無かったそうですが今では石がたくさん積まれていて、なんだか神秘的でもあり不思議な感じでした。高千穂を出る前に「トンネルの駅」によってお買いもの。トンネルの駅は昨日行った高森湧水トンネルにつなげるために掘っていたそうですが、高森側に水が出てきてしまい熊本と宮崎を繋ぐ鉄道建設は

中止になったそうです。今では神楽酒造の貯蔵庫として利用されていました。熊本に行く途中で波野村により、お昼ご飯に地鶏そば定食を頂き、昼食後は最後の目的地「熊本城」に向けて出発、昨年完成した「本丸御殿」の豪華さに圧倒され、昔の人の技術力の高さに感心しました。熊本城を見た後は高速に乗って一路太宰府へ、夕方 18 時ごろに無事に太宰府天満宮大駐車場に到着しました。3 日間天候にも恵まれ事故も無く、本当に楽しい旅行になりました。今回の旅行で、今度は自分の住む地域のまだまだ知らないことなどを、もっと勉強してみようと感じた研修旅行でした。



《 九博 特別展の見どころ 》

開山無相大師 650 年遠諱記念

特別展「京都妙心寺 禅の至宝と九州・琉球」



楠井隆志〔九州国立博物館 主任研究員〕

京都・花園に広大な境内を有する臨済宗大本山妙心寺は、建武 4 年（1337）、花園法皇の離宮を禅寺と改め、無相大師（開山慧玄、1277～1360）を開山（初代住持）に迎えて創建された臨済宗の名刹です。

この展覧会は、妙心寺創建以来、脈々と今に伝えられた開山禅の真髓と、九州・沖縄の地で花開いた多彩な禅文化の粋を示す 124 件の名宝を展観するものです。ここでは、代表的な名宝について簡単にご紹介しましょう。

妙心寺の国宝

禅宗では、師から弟子へと法が伝わることを重視します。妙心寺の「宗峰妙超墨蹟「関山道号」は、嘉暦 4 年（1329）、開山慧玄が悟りを開いたことを証して師である宗峰妙超から与えられた詩文です。開山慧玄と称するきっかけとなった墨蹟であるだけでなく、妙心寺派にとって一流相承の原点というべき至宝中の至宝です。

妙心寺の塔頭・退蔵院に伝わる「瓢鮎図」は、室町幕府の第 4 代将軍・足利義持（1386～1428）が、京都五山の高僧と相国寺の画僧・如拙（生没年不詳）に命じて制作させた水墨画です。「丸くすべすべした瓢箪で鮎を押さえ捕らえることができるか」という珍問に禅僧たちが「うまく捕まえれば鯰のスープができるが、さてご飯がないのをどうしよう？」などと珍回答を提示しています。

わが国の梵鐘の中で最古の年号が記されている妙心寺の「銅鐘」は、古来より「黄鐘調の鐘」と称えられています。今回特別出品される観世音寺の「銅鐘」と大きさや形状が同じであるため、同じ工房で同時期に北部九州で鑄造されたと考えられています。屈指の美しい姿をみせる国宝の兄弟鐘が、1300 年の時を経て初めて共鳴します。

九州・沖縄の妙心寺派寺院の名宝

九州・沖縄地方に妙心寺派が伝播したのは安土桃山時代から江戸時代初期にかけてでした。九州地方では、旧来の京都五山派の十刹・諸山が妙心寺派に吸収され、妙心寺派発展の基礎が築かれます。沖縄では、琉球国王の菩提寺院であった首里の円覚寺に妙心寺僧が住持として入寺し、円覚寺を頂点とした琉球禅林も次第に妙心寺派へと転派しました。

栄西^{ようさい} (1141～1215) が博多に建立した日本最初の本格的な禅宗寺院・聖福寺の山門には、後鳥羽上皇^{ごとうぼじょうこう} (1180～1239) の筆と伝えられる勅額「扶桑最初禅窟^{ふそうさいしよぜんくつ}」が高く掲げられています。その堂々とした存在感あふれる筆致に、聖福寺の寺格の高さと歴史の重みが見て取れます。

大分市・萬寿寺^{まんじゅじ}に伝わる白隠慧鶴筆^{はくいんえかく}「達磨像」は、大画面に巨大な達磨の顔が描かれています。大きなぎよる目の強烈な迫力に誰もが圧倒されるでしょう。

石垣島の桃林寺^{とうりんじ}の山門に安置される「金剛力士立像」は、日本最南端にある仁王像です。琉球の人によって制作されたもので、独特な気迫を放っています。島外初公開です。

地元重視の禅文化展

この展覧会のねらいは、妙心寺の至宝を展観するだけでなく、九州・沖縄地区の妙心寺派寺院に伝わる名宝を紹介することで、近世の九州・琉球における禅文化の展開の歴史を概観することにあります。この展覧会を通じて地元九州・沖縄が育んだ文化をより身近に感じ、誇りに思ってもらえたいと提供できればと願っています。



会期：平成 22 年 1 月 1 日（祝・金）～2 月 28 日（日）
会場：九州国立博物館特別展示室（福岡県太宰府市石坂 4-7-2）
問い合わせ：ハローダイヤル：050-5542-8600
休館日：月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は開館、翌日休館。ただし 1 月 4 日（月）は開館）
観覧料金：一般 1300 円、高大生 1000 円、小中生 600 円
*この料金で文化交流展もご覧いただけます。
URL: <http://www.kyuhaku.jp>

沖縄県指定文化財 金剛力士立像(吡形)
琉球・第二尚氏時代 乾隆 2 年 (1737)
沖縄県石垣市・桃林寺蔵



連歌屋子ども会と共同清掃活動・花植え・九博見学会



ピッカ美化隊は11月8日、大宰府市連歌屋子ども会と共同活動で、博物館周辺道路の清掃、九博見学をしました。

子ども会は小学児童19名と保護者の方8名が参加され、まずピッカ美化隊といっしょに、定例活動コースの清掃を行い、地域とのふれあいを体験してもらったかと、その後、博物館で花壇とプランターに、300株のビオラの苗を、小さいが元気な手を働かせ、隊員といっしょに植えることができました。

植付作業後、九博の文化交流展示室見学、なりきり学芸員体験を、九博展示解説・教育普及のボランティアさんが案内をして子ども・親ともども“古代よりの自然生活”や“土器”とか“鏡”とか“なりきり体験”等 熱心に見学されました。

子供たちも大人のボランティアと共にする体験を通して、博物館への親しみや学び等を体得する良い機会であったと思います。子供たちも「町をきれいにすることは大切だね」「楽しい勉強になった」等、感想を言っていました。

これからもまた、元気に咲いた花に逢いに・館に遊びに・いっしょにボランティアにという機会が多くできればと願って



おります

事業委員会・ピッカ美化隊

掲示板

九博子どもフェスタ

「博物館って本当におもしろいね！」

日時：平成22年2月21日（日） 10:00～16:30

会場：九州国立博物館エントランスホール・ミュージアムホール・研修室 他

昨年好評いただいた九博子どもフェスタを「博物館って意外とおもしろいね！」から今年は「博物館って本当におもしろいね！」にキャッチフレーズを変えて開催します。九博を愛する会の1つの大テーマでもあります「子供たちを博物館へ」を実現させるため当会ボランティアと九博ボランティアが一体となってこのイベント企画を推進してまいります。



昨年の子どもフェスタの様子

会員の皆様の参加協力とご来館をお願いします。詳細内容はチラシ・九博を愛する会ホームページ(HP)・九博HPをご参照ください。

尚、特別参加として筑紫地区児童画展が2月16日（火）～21日（日）までエントランスホールで開催されます。



昨年の子どもフェスタの様子



禅講座
1月30日(土)・2月13日(土)
13:00~14:00
ミュージアムホール B
要申込(先着280名)

尺八コンサート「吹禅のひびき」
1月31日(日)14:00~15:00
ミュージアムホール B
当日受付(定員280名)

ひなの国九州フェスタ2010
1月19日(火)~31日(日)
9:30~17:00
エントランスホール C 申込なし



南方流 呈茶会
2月6日(土)・7日(日)
9:30~
エントランスホール B
当日受付(先着200名)

日展 福岡作家展「和のこころ」
2月2日(火)~11日(木・祝)
9:30~17:00
ミュージアムホール B 申込なし

京都物産展
2月9日(火)~14日(日)
9:30~17:00
エントランスホール B
申込なし



**第6回ガムランワークショップ
~ジャワのガムラン演奏を体験~**
1月23日(土)13:30~15:30
ミュージアムホール D
要申込 対象:小学生~高校生

**第14回朝日寄席
「発笑い、伝統の柳派と新作”星空”落語」**
1月24日(日) 13:00開場 13:30開演
ミュージアムホール E
全席指定 2,500円

九博子どもフェスタ
2月21日(日) 時間未定
ミュージアムホール・エントランスホール A
申込なし

筑紫地区小学校児童絵画展
2月16日(火)~2月21日(日)
9:30~17:00
エントランスホール A 申込なし

第4回福岡県景観大会
3月2日(火)~7日(日)
9:30~17:00
エントランスホール G
申込なし

**筑紫地区文化財写真展
ちくし再発見~遺跡と眺望~**
2月23日(火)~3月7日(日)
9:30~17:00
エントランスホール F 申込なし

きゅうはくミュージアムコンサート
2月27日(土) } ①13:00~
3月20日(土) } ②15:00~
エントランスホール A 申込なし

**劇団道化・中国児童芸術劇院
日中合作公演**
3月19日(金) 時間未定
ミュージアムホール H
一般500円・高校生以下無料

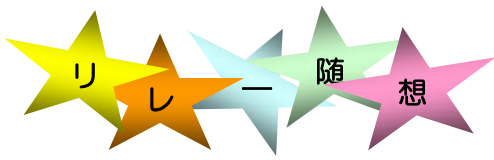
第14回九博デー
3月21日(日)
14:00~
ミュージアムホール A
申込なし

九博で博多にわか
3月27日(土) ①11:00~
②13:00~
ミュージアムホール I 申込なし

(※時間、場所、内容等が予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。)

- ※注1 A 九州国立博物館 NTTハロ-ダイヤル/☎050-5542-8600 (8:00~22:00)
B 西日本新聞イベントサービス内「京都妙心寺」係/☎092-711-5491 (平日10:00~17:00)
C 九州のひなまつり広域振興協議会(八女市商工観光課) ☎0943-23-1192
D 九州国立博物館 交流課教育普及担当/☎092-929-3294
E 朝日新聞社事業本部西部企画事業チーム ☎092-411-1137 (平日10:00~18:00)
F 筑紫野市教育委員会 文化振興課/☎092-921-8419
G 福岡県都市計画課/☎092-643-3712
H 劇団道化/☎092-922-9738
I 博多仁和加振興会 事務局/☎090-1341-7819





早いもので、今年は九博5周年

須川一幸

2004年のある日、元永氏から『会いたい』との電話。何もわからず会って見て様々な話をした。特に、『人づくり』と『地域文化を大事にする心』の2点が地域振興には重要で、そのために地域に出向き、地域の人たちと直接会って、話をして、地域の問題点や課題を共有し、いっしょに考え、こうしたら地域が元気を取り戻せるかもと企画し、計画から実行まで、地域が目線（地域に軸足を置き）で、地域の人たちのために地元といっしょに活動していると話した。机の上からは何も生まれない、目と耳と、手と足が地域を変えると。熱く語ったように思う。イベントだけでなく地域づくりを実践しているとの理由で九博の交流課の手伝いをするようになった。最初に参加したのが九州国立博物館を支援する会「ボラ研」である。糸井さんと元永さんといっしょに出席した。自己紹介程度で何も話せなかった。それから毎回参加するようになった。仲間にしていただき、九博のために何ができるのかを学ばせていただいた。

私の地域づくりは、『開発なき開発・開発すべきは地域の人たちの心』すなわち、道路や橋のハード事業ではなく、自分たちの心を前向きにし、元気になるための事業（ソフト事業）をやろうと。そんな取り組みが実を結び始めている。もう15年以上かかっている。一人暮らしの老婆のために救急車が入るように道路を広げた。自分たちの畑を削り、生コンの材料を役場からもらい、自分たちで作業して、老婆のための道を作った。県道の草払いは県庁がお金を出す時は1/3くらいしか参加しないのに、福岡からのお客様をお迎えするためのイベントの一週間前には、爺婆から保育園児まで地域の住民総出で草払いをする。人のためにすることが、結果、自分たちのためになっていることに気付いた。この草払いにより高齢者（特に電動車いす）の交通事故が無くなったのだ。孫やひ孫たちと楽しく草払いすることによって高齢者も元気になり始めた。イベントの時に手づくり木工品を出してみた。お金を頂いた。びっくり仰天！20年ぶりの現金収入だ。年金以外で小遣い銭が増えた。そのお金は孫の玩具になった。お客様にも喜ばれ、孫にも喜ばれた。また、手づくり木工品を作る喜びができた。イベントの出演者にもなった。孫やひ孫、嫁さんたちといっしょに踊り始めた。また元気になった。病院には2ヶ月に1回行けば良いようになった。10数年前から孫に踊りを教え始めた。太鼓や笛も教えた。毎年孫が上手になり、主役になった。孫は高校・大学と地元を離れた。今年イベントの時に帰ってきた。そして、ステージの裏方をしていた。後輩たちの面倒を見ていた。来年大学を卒業したら地元に戻って家業である農業を継ぐとのこと。うれしい限りである。

こんな地域づくりをしながら、九博5周年を迎えるに当たり、九博と地域を結ぶ『架け橋』である九州国立博物館を愛する会のメンバーとして、来館者にも地域にも九博にも喜んでもらうよう活動を続けていきたいと思います。（個人的には今年が年男です。5年周期で様々な取り組みをしてきました。10年一昔と言いますが、今では5年一昔というところでしょうか）

編集後記

あけましておめでとうございます。

愛する会も、新しい年を迎え、今年も盛り沢山の活動に頑張っていきます。

特に、次世代を担う子ども達と、博物館を結びつける「子どもフェスタ」へのご参加を是非お願いします。